

第 43 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 6 月 20 日 (火) 13:30~21:00

場 所 兵庫県民会館 亀の間

出席者 (委員) 松本(誠)、奥西、川谷、村岡、岡田、加藤、佐々木、田村、中川、
浅見、伊藤、草薙、谷田、土谷
(河川管理者) 田中、森田、渡邊、前川、前田、西村、合田
(河川整備課) 高本、寒川、多賀
(事務局) 林、長尾、植田

内 容(協議結果)

1 総合治水対策の検討

(1) 千苅ダムの治水活用

千苅ダムの治水活用について協議した結果、下記のことを確認した。

堤体に影響のない範囲で貯水池を掘削して貯水量を増加させることは、土砂の処理等を含め効果とコストに問題があることから、検討対象外とする

「治水専用ダム化案」については、水道水源をゼロにしてしまうことや、空っぽの巨大な遊水地化してしまうこと、ダム湖の環境問題に加えて効果コストなどの問題から、検討対象からはずす。

「多目的ダム化案」のバリエーションについては今後、下記の委員からの提案を踏まえ検討する。

B-1 166万m³の治水容量の中で450m³/s定量放流による洪水調節を行う。(原案通り)

B-2 既設放流開渠及びトンネルの敷高を掘り下げることにより、B-1案より更に事前放流を付加して治水効果量を増やす。

B-2 主堰堤の越流頂と現況の常時満水位の間の容量を治水容量として活用し、治水容量を166万m³からさらに拡大する。

B-3 「多目的ダム化」を図る中で「治水ダム化案」効果量にさらに近づけるための具体策について、県およびコンサルタント等でさらに検討し、委員会およびWTで協議する。

現況の主堰堤及び放水堰堤の流下能力を、ゲートの有無別に整理の上、次回流域委員会(6月26日開催予定)で報告する。

「事前放流案」「多目的ダム化案」「治水ダム化案」のそれぞれの概算工事費の根拠を、次回流域委員会で県から報告する。

(2) 新規ダムの環境影響検討資料

新規ダムの環境影響検討資料について協議した結果、下記のことを確認した。

各委員は、新規ダムの環境影響検討資料に関する意見書、質問書を第5回運営委員会までに提出し、次回流域委員会で協議する。

次回流域委員会では、新規ダムの環境影響検討資料に関する意見書、質問書への回答を行う。現時点で回答できないことは今後の検討課題として整理する。

整備計画における新規ダムの位置づけ及び目標流量について、委員会としての最終的な「意志決定」は第47回流域委員会(7月26日開催予定)で行うこととし、協議の進め方については運営委員会で検討する。

(3) 整備計画の「4つの治水対策メニュー」

第43回流域委員会で県から提出のあった整備計画の「4つの治水対策メニュー」に対する意見をどのように取り扱うかは、運営委員会で継続協議することとなった。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

総合治水対策

(2) 今後の日程（開催日時）

第44回 6月29日（木）17：30～
第45回 7月4日（火）16：30～
第46回 7月13日（木）14：00～
第47回 7月21日（金）13：30～
第48回 7月28日（金）15：00～
第49回 8月4日（金）13：30～

当日配付資料

当日配布 質問書：千苅ダムのゲートについて（奥西委員）（第54回運営委員会資料）

当日配布 千苅ダム操作基準について（伊藤委員）（第54回運営委員会資料）

当日配布 利水ダムについて（第6回総合治水WT会議資料）